



株式会社 少年写真新聞社

〒102-8232 東京都千代田区九段南3-9-14F 九段南ビル
https://www.schoolpress.co.jp/

★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が替わりましても、購読中止のお申し出がない場合、

引き続きニュースをご送付申し上げます。

※著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

夏に気をつけたい子どもの皮膚トラブル

塚田こども医院 院長 塚田次郎

日本の夏は、暑くて湿気が多いです。近年は、さらに厳しさを増しています。

健康状態を維持するのは、大変なことです。気温、日光、紫外線など、気をつけることはたくさんあります。さらに、子どもたちの皮膚は薄くて、抵抗力が弱いために、夏場はいろいろなトラブルに見舞われます。

虫刺され

まずは、虫刺されです。蚊、蛾、昆虫類などが、子どもたちの皮膚を狙っています。蚊に刺されると、日本脳炎やジカ熱などになることがあるかもしれません。

やぶの近くなど、蚊などが多いところでは、肌の露出は危険です。長袖、長ズボン、帽子などを着用してください。防虫スプレーも効果的ですが、アレルギー症状が出る場合もあるため、使用前に少量を肌につけて、異常がないことを確認してから使用してください。

あせも

あせも(汗疹)も、夏に起こりやすいトラブルのひとつです。首、腕、脇の下など、汗を流すところにできることが多いです。

汗をかいた後、そのままにしておかないことが大切です。シャワーや入浴などをしてください。それが難しい場合は、湿らせたタオルで体を拭いてください。

とびひ

あせもを放置すると、そこからとびひ(伝染性膿痂疹)になってしまうことがあります。皮膚が汚れ、ぐちゃぐちゃとした状態になります(水疱性膿痂疹)。

とびひは、皮膚の細菌感染です。夏場は細

菌の繁殖が活発になり、さらに子どもは皮膚の免疫力が弱いために、とびひになりやすくなります。一度とびひになると、どんどん広がります(症状が体のあちこちに飛んでいくので、この名前があります)。

とびひを予防するには、皮膚を清潔に保つことが大切です。汗をきちんと処理して、汚れた手で触らないようにします。特に鼻の中にはとびひを起こす細菌が多いので、鼻をいじらないことも大切です。

とびひになったら、早めに抗生物質をぬるなどの治療が必要です。範囲が広い場合には、登園(登校)停止になることもあります。

水いぼ

水いぼ(伝染性軟属腫)は、ウイルスの感染によって起きます。伝染力はそれほど強くないので、なったからといって直ちに普通生活が送れなくなるわけではありませんが、プールに入る時には注意が必要です。ビート板やタオルを共有しないようにしてください。

水いぼが大きい場合には、ピンセットで摘み取るなどの物理的除去をする場合があります。小さくて数が多い場合には、漢方を使う場合もありますので、主治医の先生と相談をしてください。

夏は子どもたちの活動量が多くなり、元気に遊ぶことができる季節です。思う存分、遊ばせてあげたいのですが、思いがけず熱中症になったり、皮膚のトラブルを起こしたりしがちです。

休憩をとりながら活動する、食事はきちんととる、夜は入浴したうえでしっかり休むなど、規則正しい生活にも気をつけてください。